

2023年3月期第2四半期 決算補足資料

株式会社ハマキョウレックス

東京証券取引所市場第一部:9037



【日向センター】

- I. 2023年3月期第2四半期概況
- II. 2023年3月期下期に向けて
- III. 2023年3月期第2四半期実績
- IV. 近物レックスの現況と今後の戦略
- V. 参考情報

I . 2023年3月期 第 2 四半期概況

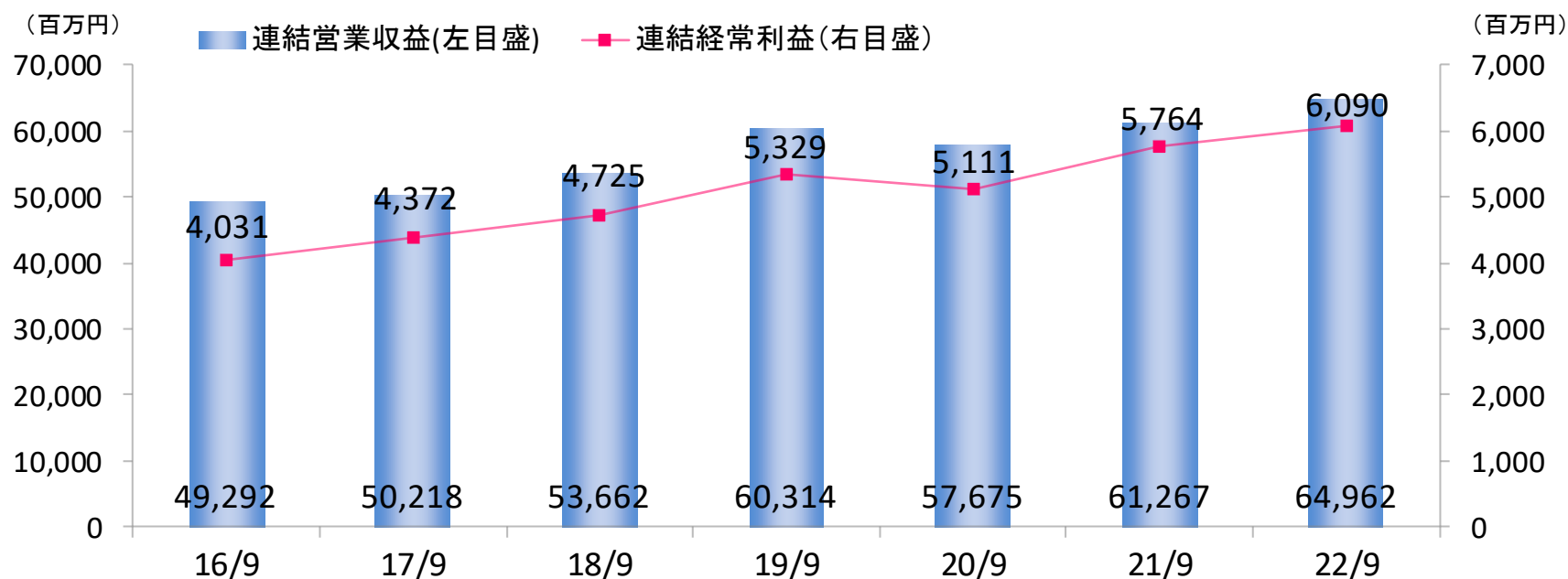
I -1. 2023年3月期第2四半期の業績

営業収益は、**649億62百万円**(前年同期比 +6.0%)

経常利益は、**60億90百万円**(前年同期比 +5.7%) の増収増益

項目	対前期比	対前期比増減主な要因
営業収益 64,962百万円	+3,695百万円 (+6.0%)	・物流センター事業での運営の充実と新規稼働したセンターが順次業績に寄与 ・M&A効果
営業利益 5,628百万円	+123百万円 (+2.2%)	・物流センター事業で生産性向上及び収益増加 ・M&A効果
経常利益 6,090百万円	+326百万円 (+5.7%)	
親会社株主に帰属する 四半期純利益 3,664百万円	+274百万円 (+8.1%)	

I-2. 収益構造



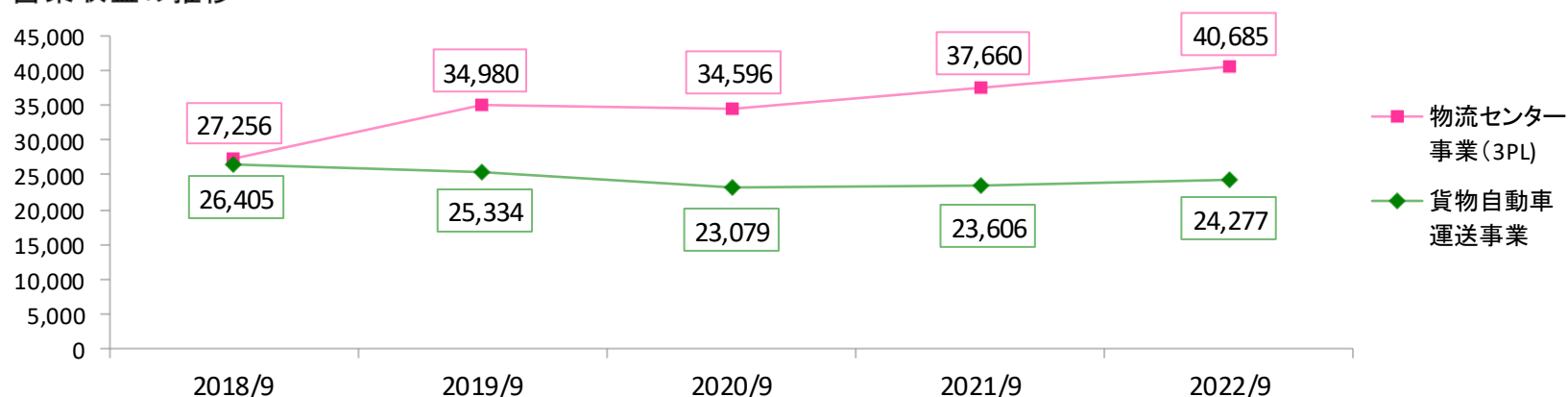
	連結業績
営業収益	2期連続増収(過去最高)
営業利益	2期連続増益(過去最高)
経常利益	2期連続増益(過去最高)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	9期連続 増益(過去最高)

I-3. セグメント情報の推移

(連結: 百万円)

		2018/9 (構成比:%)	2019/9 (構成比:%)	2020/9 (構成比:%)	2021/9 (構成比:%)	2022/9 (構成比:%)	増減 (増減率:%)
物流センター 事業(3PL)	営業収益	27,256 (50.8%)	34,980 (58.0%)	34,596 (60.0%)	37,660 (61.5%)	40,685 (62.6%)	+3,024 (+8.0%)
	営業利益	2,970	3,806	3,954	4,573	4,905	+331
貨物自動車 運送事業	営業収益	26,405 (49.2%)	25,334 (42.0%)	23,079 (40.0%)	23,606 (38.5%)	24,277 (37.4%)	+671 (+2.8%)
	営業利益	1,532	1,265	936	928	721	△207

営業収益の推移

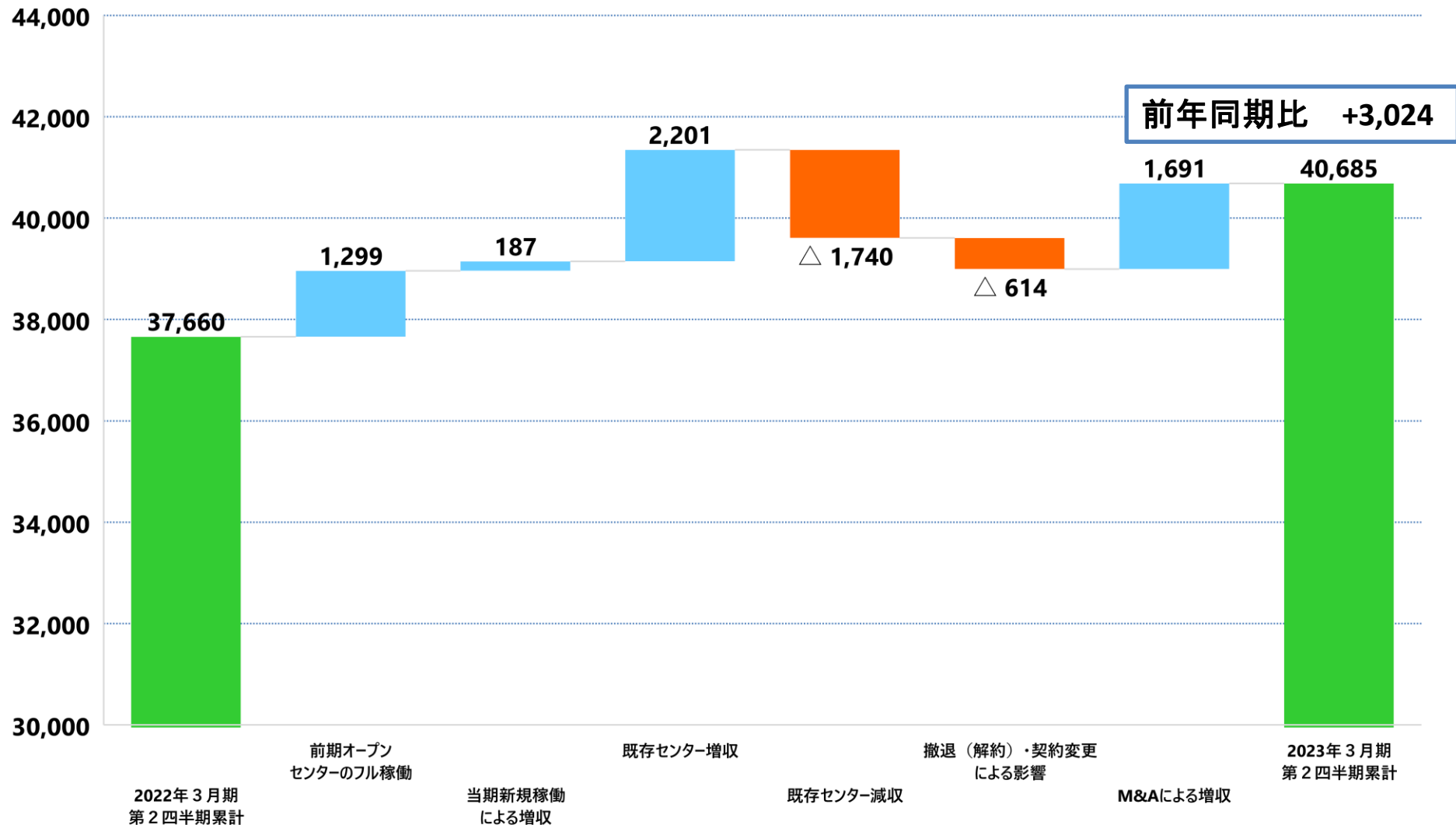


※2020年4月1日付で、当社の連結子会社である㈱ロジ・レックスが、同じく当社の連結子会社である㈱ジェイビーエスを吸収合併したことにより、事業セグメントの変更を行っております。なお、比較のため、2019年9月期のセグメント情報は、変更後の区分に基づき作成しております。

I-4. 物流センター事業(3PL)の概況

営業収益の状況

(百万円)



I-5. 物流センター事業の稼働状況

新規受託及び稼働

取扱品目	① 前期受託 未稼働	② 当期 受託	③ 稼働		④ 当期 未稼働	①+②-③-④ 未稼働memo
			既存※1	新規※2		
メディカル/ヘルスケア		3社	1社		2社	
フード					-	
アパレル		1社			1社	
ホームケア	2社	4社	2社	3社	1社	
その他					-	
計	2社	8社	3社	3社	4社	

※1 既存の物流センター内に稼働した案件 / ※2 新規拠点にて稼働した案件



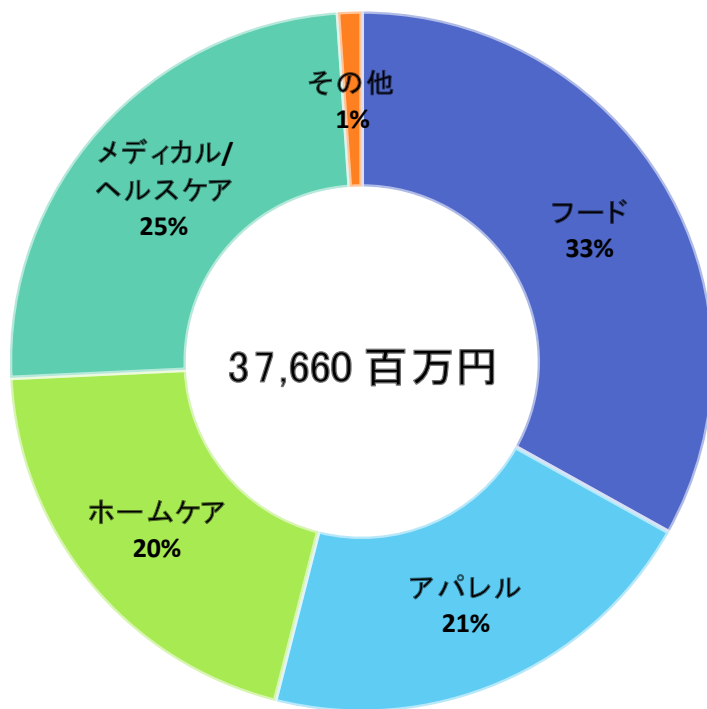
物流センター数

2022年9月30日現在

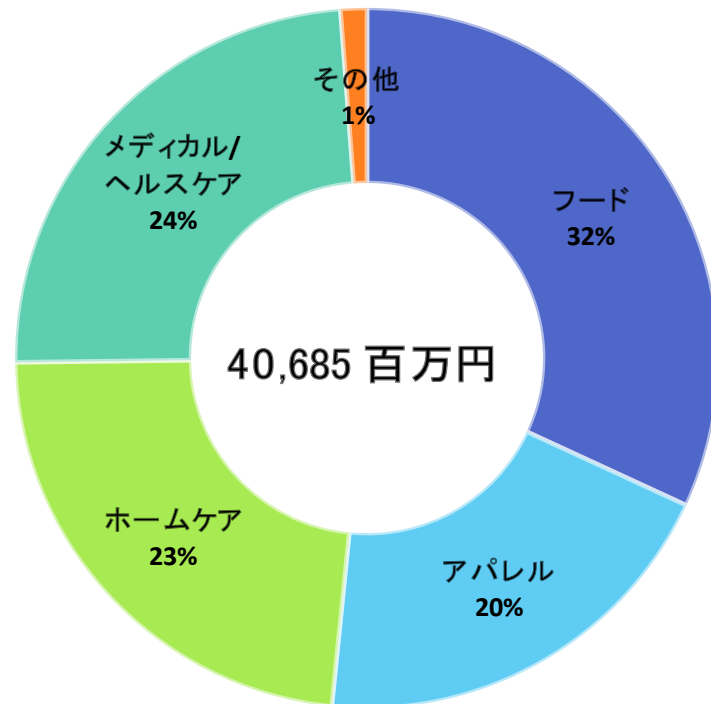
自社センター	49	(488,608㎡)
借用センター	103	(821,306㎡)
計	152	(前年度末比+22)

I-6. 物流センター事業の取扱カテゴリー別売上高

2022年3月期第2四半期累計



2023年3月期第2四半期累計

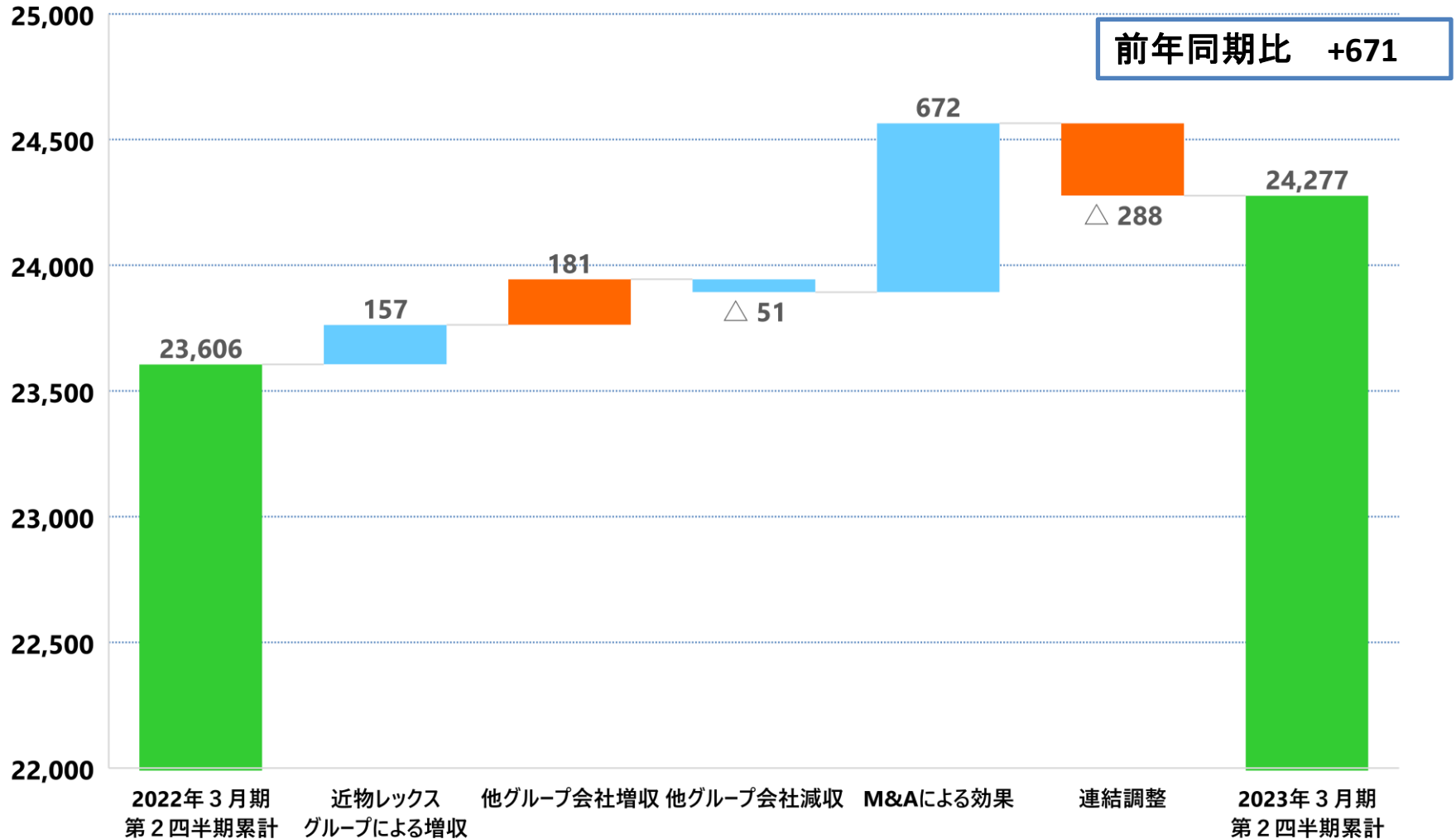


※2023年3月期第2四半期より、カテゴリー名を変更しております。
なお、比較のため、2022年3月期第2四半期につきましても、変更後のカテゴリー名にて表記しております。

I-7. 貨物自動車運送事業の概況

営業収益の状況

(百万円)



※近物レックスグループとは、近物レックス㈱とその子会社5社です。

(都運輸㈱、三重近物通運㈱、茨城県貨物自動車運送㈱、㈱エービーエクスプレス、近物ロケーションサービス㈱)

Ⅱ. 2023年3月期 下期に向けて

Ⅱ-1. 2023年3月期 業績予想

(百万円)

	連結業績	
	計画	前期比 (増加率)
営業収益	132,000	+6,905 (+5.5%)
営業利益	11,900	+785 (+7.1%)
経常利益	12,400	+442 (+3.7%)
親会社株主に帰属する当期純利益	7,300	+182 (+2.6%)
設備計画	9,000	***



(百万円)

セグメント別業績予想

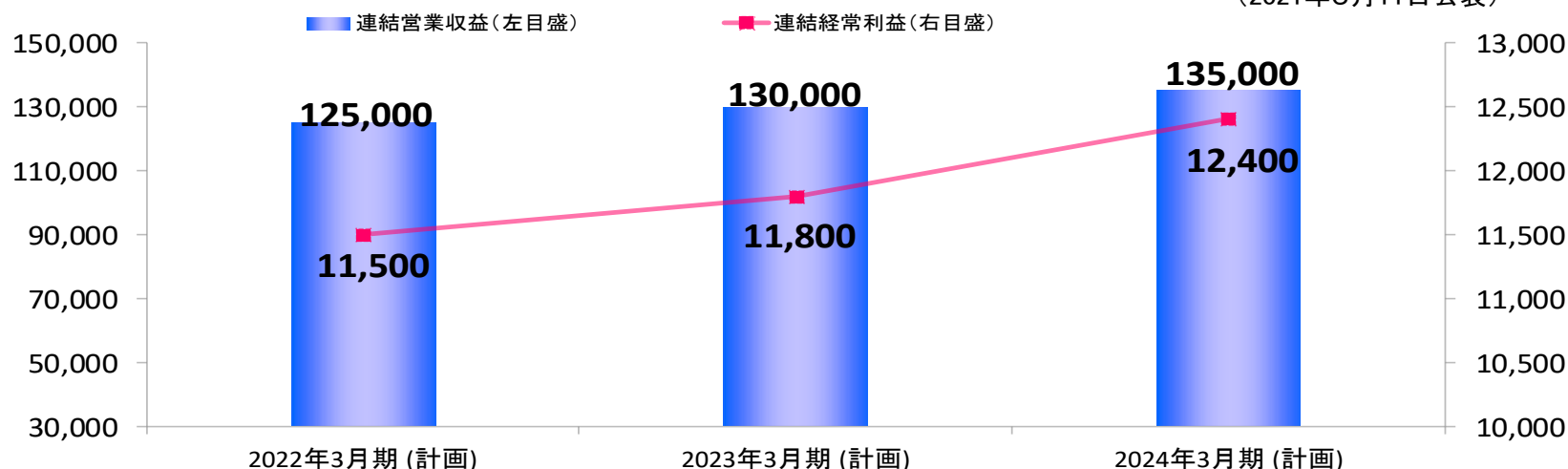
		計画	前期比	(増加率)
物流センター事業	営業収益	81,600	+4,636	(+6.0%)
	営業利益	9,700	+389	(+4.2%)
貨物自動車 運送事業	営業収益	50,400	+2,268	(+4.7%)
	営業利益	2,200	+401	(+22.3%)

Ⅱ-2. 中期経営計画

(百万円)

	2022年3月期 (計画)	2023年3月期 (計画)	2024年3月期 (計画)
	連結	連結	連結
営業収益	125,000	130,000	135,000
経常利益	11,500	11,800	12,400
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,750	6,900	7,200
1株当たり当期純利益	358.84	366.81	382.76
営業収益経常利益率	9.2%	9.1%	9.2%
設備投資計画	90億円	90億円	90億円

(2021年5月11日公表)



Ⅱ-3. 今後の取り組み①

1. 3PL事業を軸とする事業展開

①DX推進部を新設し、物流センターの省人化

- ・ 関東の物流センターにて、物流ロボット導入により入出荷作業の一部省人化を実現
- ・ カメラ認証技術及び自動搬送ロボットの活用により更なる省人化を目指す

②EC物流の拡大（ラストワンマイル）と自社配送の取組み

事業展開しているEC物流センターのノウハウを活かし、成長見込まれるEC物流の受託拡大（ラストワンマイル）と自社配送を推進する

③事業採算・リスクを勘案し、積極的な設備投資を行う

- ・ 既存の物流センターにおいても省人化設備の導入を積極的に行っていく
- ・ 物流センターの自社倉庫建設を積極的に行っていく

2. 3PL事業とグループ会社の融合

- ①近物レックスのターミナルを物流センター化し、シナジー強化を図る
- ②近物レックスの拠点網が充実しているエリアでのシナジー強化を図る

3. 運送事業の取組み

- ①近物レックスのターミナルを利用し、軽貨物車両を利用した宅配サービスを推進する
- ②労働環境の改善のため運賃是正の推進

Ⅱ-4. 今後の取り組み②

4. 新規顧客獲得に向けた取り組み

- ①既存の組織・職務・各関連会社にとらわれず、グループ全体での新規顧客獲得に向けた営業を行う
- ②物流センター事業での年間受託件数15社を目指す

5. 海外戦略への取り組み

- ①国内の顧客満足度を向上させるため、ニーズに応じた海外展開を図る
- ②インド国内の完成車輸送の拡大とコールドチェーン物流の開発促進する

6. ESGへの取り組み

- ①物流センター事業 太陽光発電システム導入によるCO₂削減
入荷車両管理システムの導入による車両の待機時間削減
- ②貨物自動車運送事業 CO₂排出量の少ない車両の導入
- ③共通 積載率のUP及び共配による車両効率の向上
倉庫施設への環境負荷低減部材の導入
(リサイクルパレット、ホームプロテクター等)



Ⅲ. 2023年3月期 第2四半期実績

Ⅲ-1. 四半期会計期間別(3ヶ月)の業績推移

(連結:百万円)

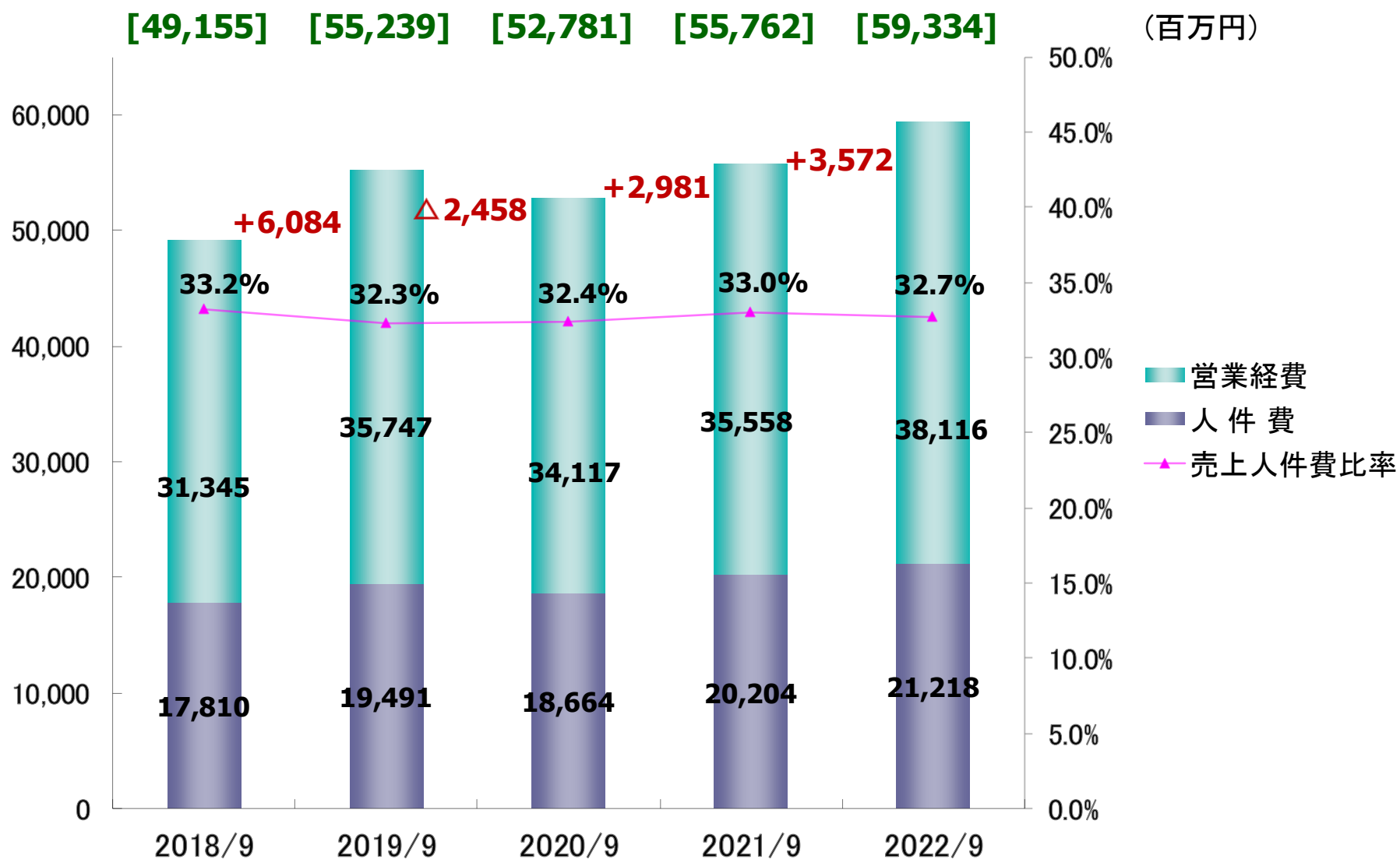
	第1四半期			第2四半期		
	2022/6	前期比 (増減率)	利益率	2022/9	前期比 (増減率)	利益率
営業収益	32,547	+1,936 (+6.3%)	—	32,415	+1,759 (+5.7%)	—
営業利益	2,888	△25 (△0.9%)	8.9%	2,739	+149 (+5.8%)	8.5%
経常利益	3,172	+100 (+3.3%)	9.7%	2,917	+225 (+8.4%)	9.0%
親会社株主に 帰属する四半 期純利益	1,958	+158 (+8.8%)	6.0%	1,705	+116 (+7.3%)	5.3%

Ⅲ-2. セグメント別四半期会計期間(3ヶ月)の業績推移

(百万円)

		第1四半期 (4～6月)		第2四半期 (7～9月)		第2四半期累計 (4～9月)	
		当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)
物流センター	営業収益	20,356	+1,596 (+8.5%)	20,328	+1,428 (+7.6%)	40,685	+3,024 (+8.0%)
	営業利益	2,536	+146 (+6.1%)	2,368	+185 (+8.5%)	4,905	+331 (+7.3%)
貨物自動車運送	営業収益	12,190	+339 (+2.9%)	12,087	+331 (+2.8%)	24,277	+671 (+2.8%)
	営業利益	350	△172 (△33.0%)	370	△35 (△8.6%)	721	△207 (△22.4%)

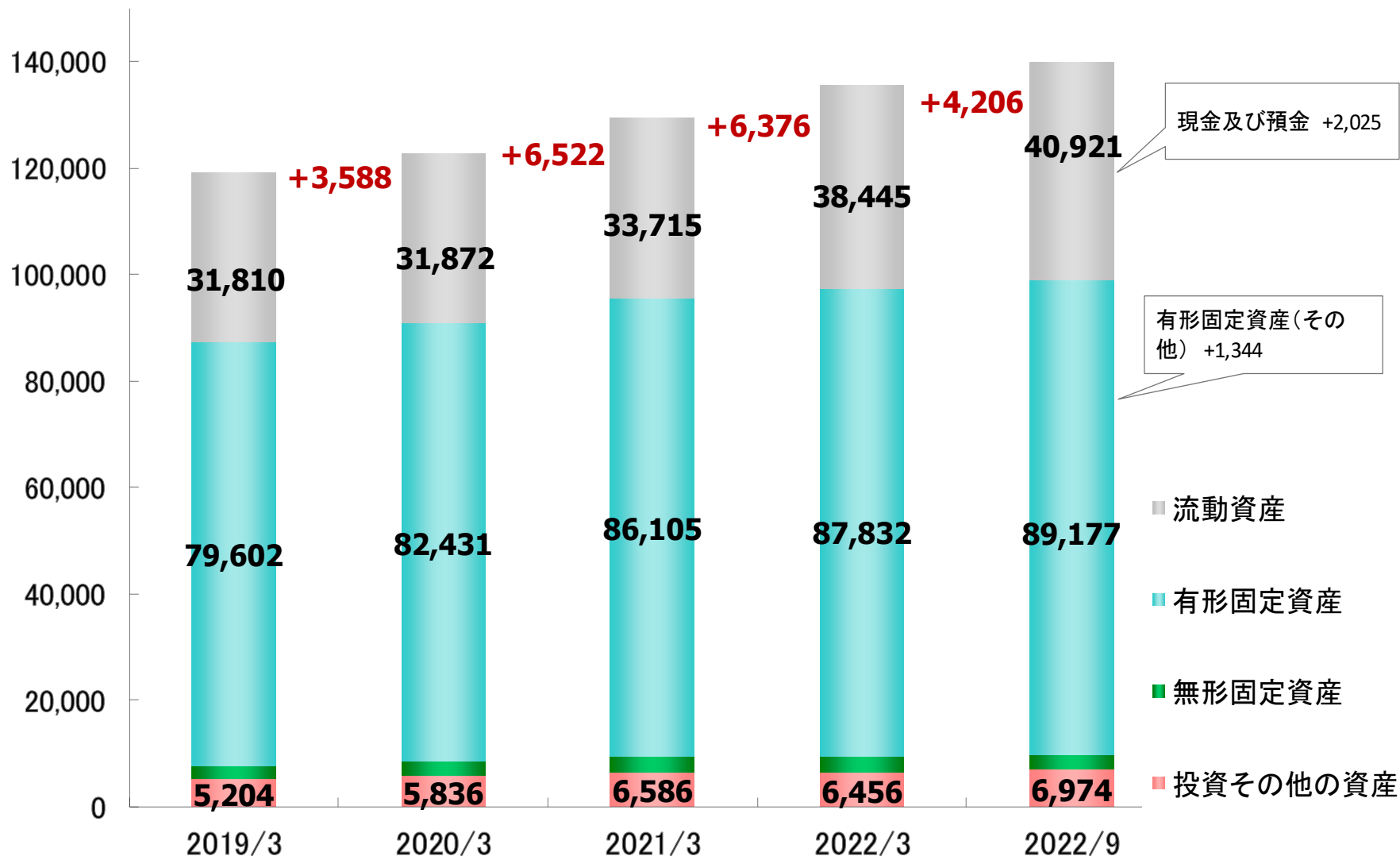
Ⅲ-3. 経費・人件費



Ⅲ-4. 貸借対照表<資産>

[119,184] [122,773] [129,295] [135,672] [139,879]

(連結:百万円)

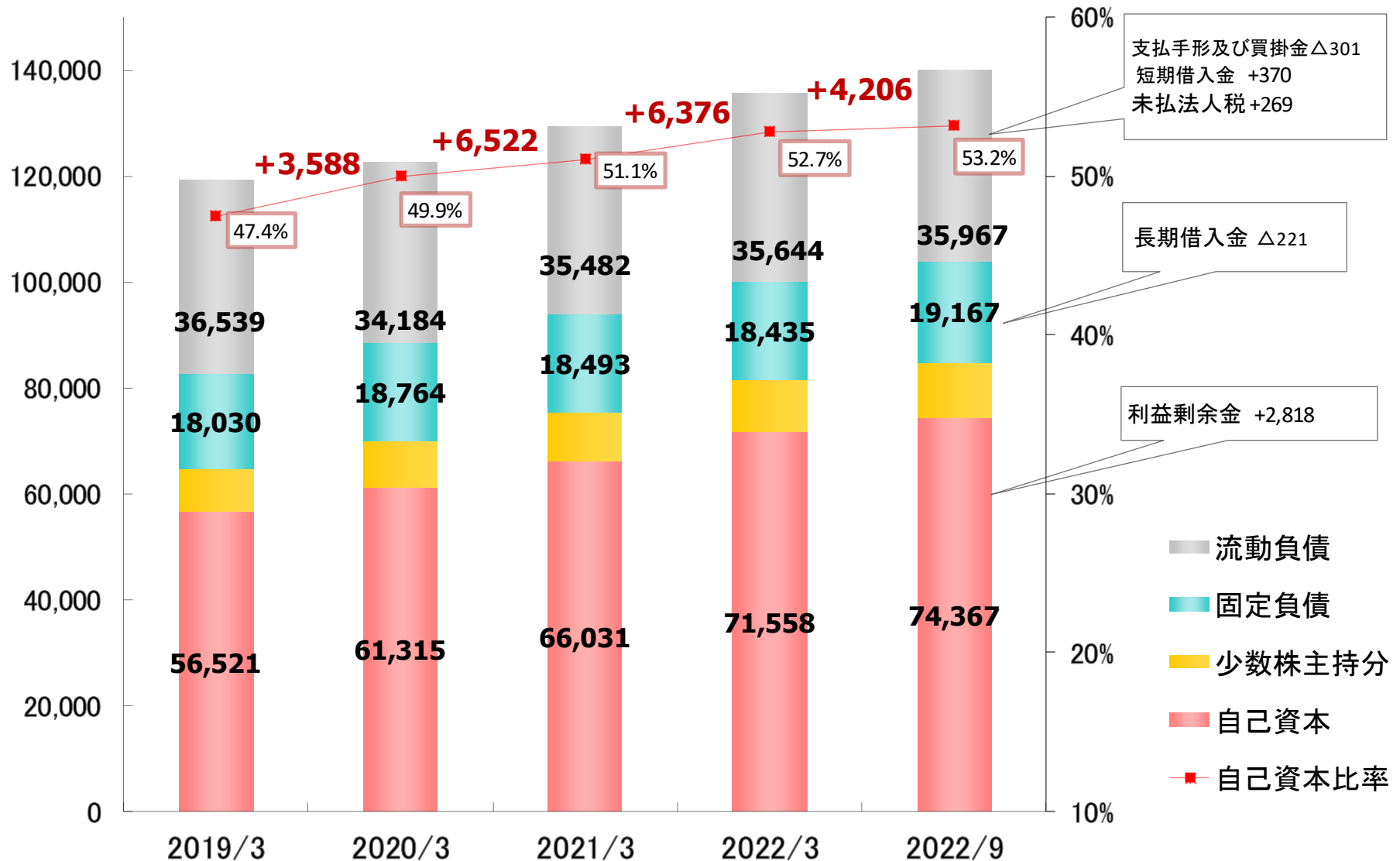


中間

Ⅲ-5. 貸借対照表＜負債・純資産＞

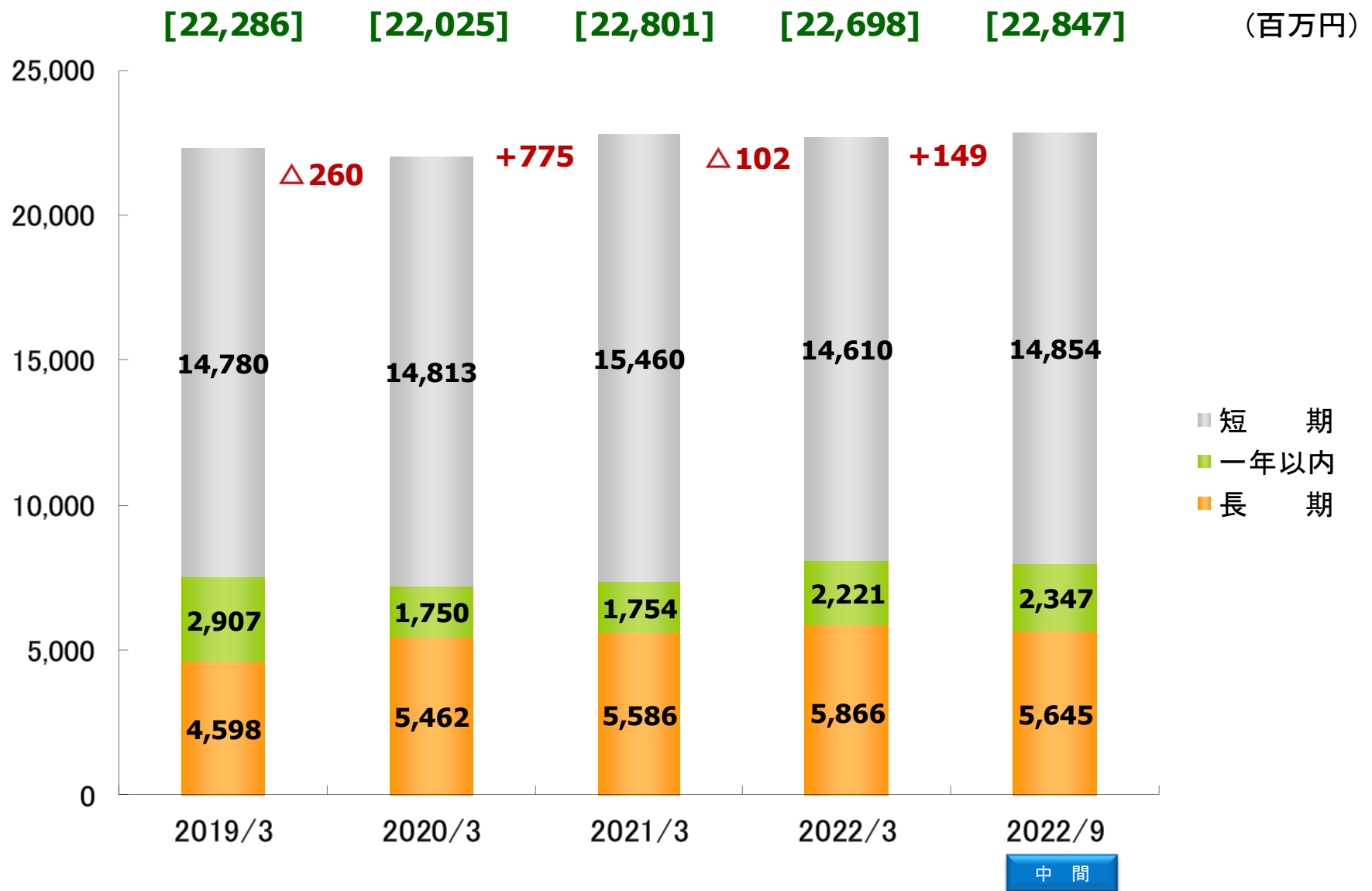
[119,184] [122,773] [129,295] [135,672] [139,879]

(百万円)

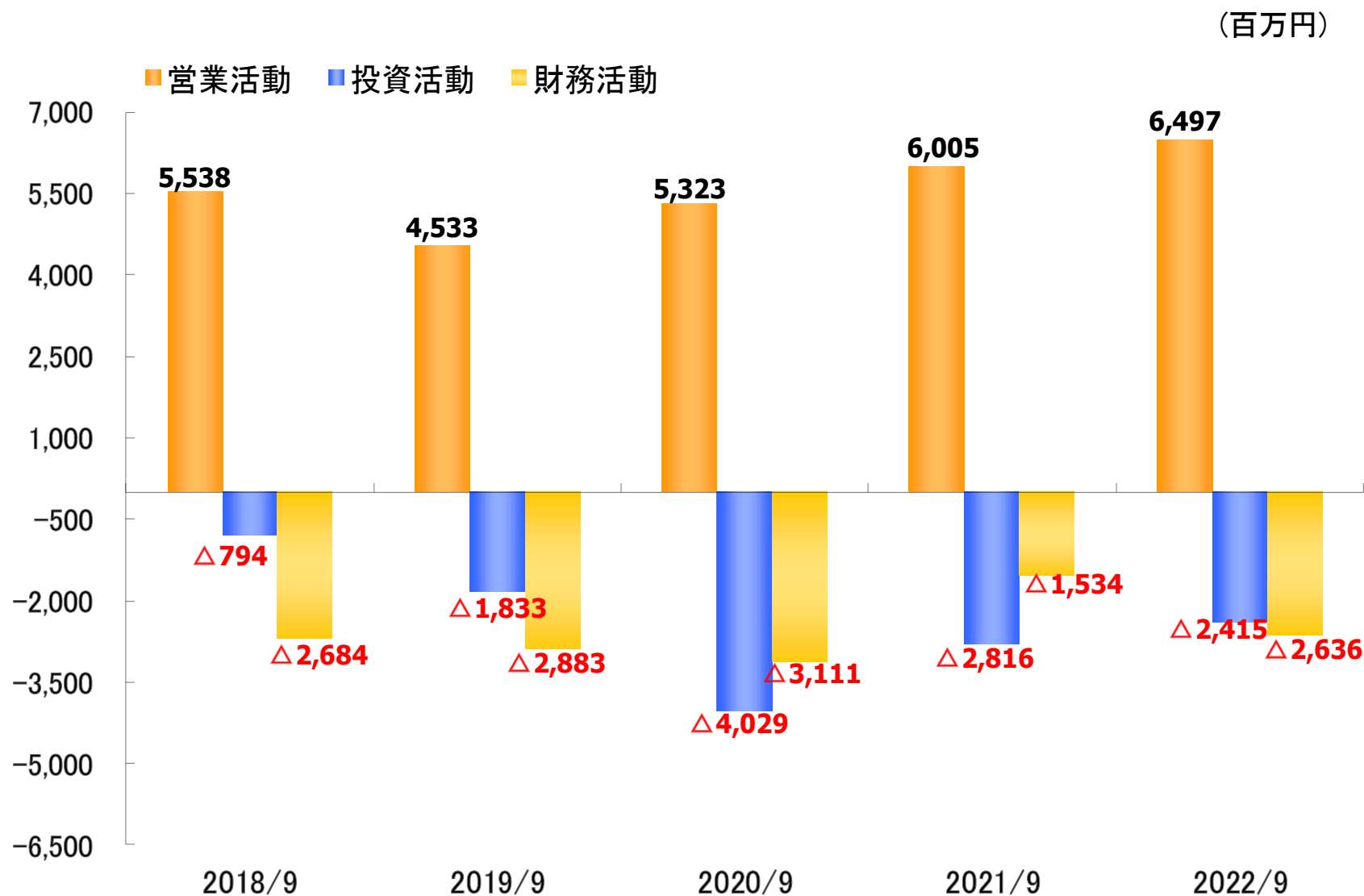


中間

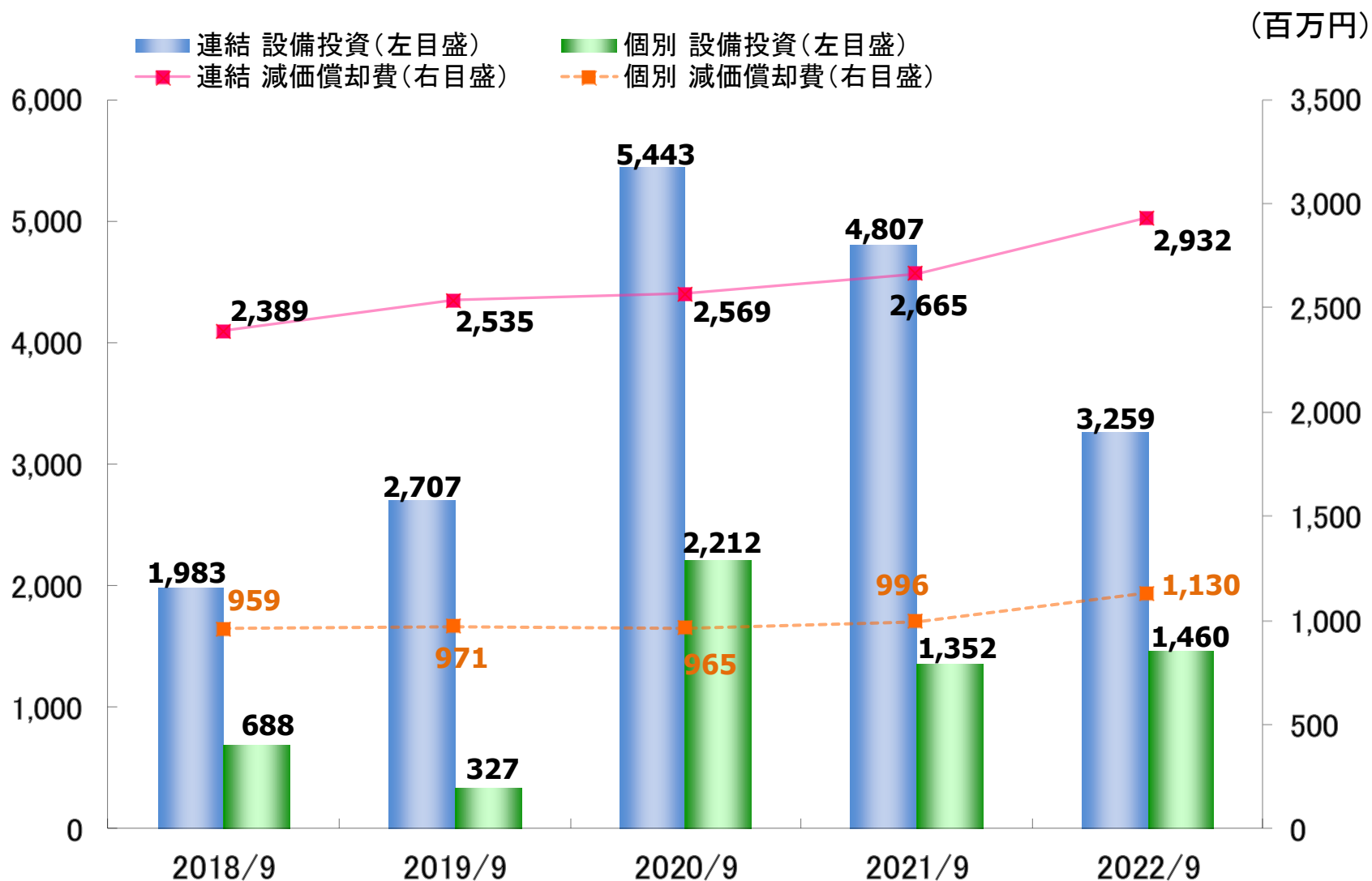
Ⅲ-6. 有利子負債（借入金）



Ⅲ-7. キャッシュ・フロー



Ⅲ-8. 設備投資・減価償却費



IV. 近物レックスの現況 と 今後の戦略

IV-1. 2023年3月期第2四半期の業績

営業収益は、**183億 75百万円**（前年同期比 +1.3%）
経常利益は、**2億 97百万円**（前年同期比 $\Delta 43.0\%$ ）の増収減益

項目	対前期比	対前期比増減要因
営業収益 18,375百万円	+227百万円 (+1.3%)	・新規で沖縄向けの貸切輸送増加 ・燃料サーチャージ収入の収受
営業利益 255百万円	$\Delta 239$ 百万円 ($\Delta 48.4\%$)	・人件費の増加 ・軽油費の増加 ・運送外注費の増加
経常利益 297百万円	$\Delta 224$ 百万円 ($\Delta 43.0\%$)	・営業外収益の増加 車両売却 ・営業外費用の減少 支払利息
当期純利益 203百万円	$\Delta 131$ 百万円 ($\Delta 39.3\%$)	

IV-2. 近物レックスの下期取組み

1. 収益力の強化

◎輸送量の確保

- ・新規と既存の増量

◎燃料サーチャージ収入の収受

◎グループ間取引の拡大

◎運賃是正の計画



2. 輸送の効率化

◎同業との連携



3. 雇用確保

◎ドライバー採用の強化

V. 参考情報



「物」に携わる者として、

「人と接するときは、**心**を込めて」

「仕事をするときは、**初心**を忘れず前向きに」

「物を扱うときは、**心**を込めて丁寧に」

「物を運ぶときは、**心**を込めて安全に」

「如何なるときにも感謝の**心**を大切に」

を基本テーマに取り組んでおります。

V-2. 経営方針

物流の役割は駅伝でいえば最終ランナー、
地味ではあるが信頼された重要な存在。

当企業グループは信頼に応えて効率的な事業活動の展開と継続的で質の高い成長を図り、お客様第一、品質第一を基本に、企業としての社会的責任を果たしてまいります。

また、短期的な収益にとらわれず、長期的な視点に立った経営を行い、3PL物流における質的内容の日本一を目指します。

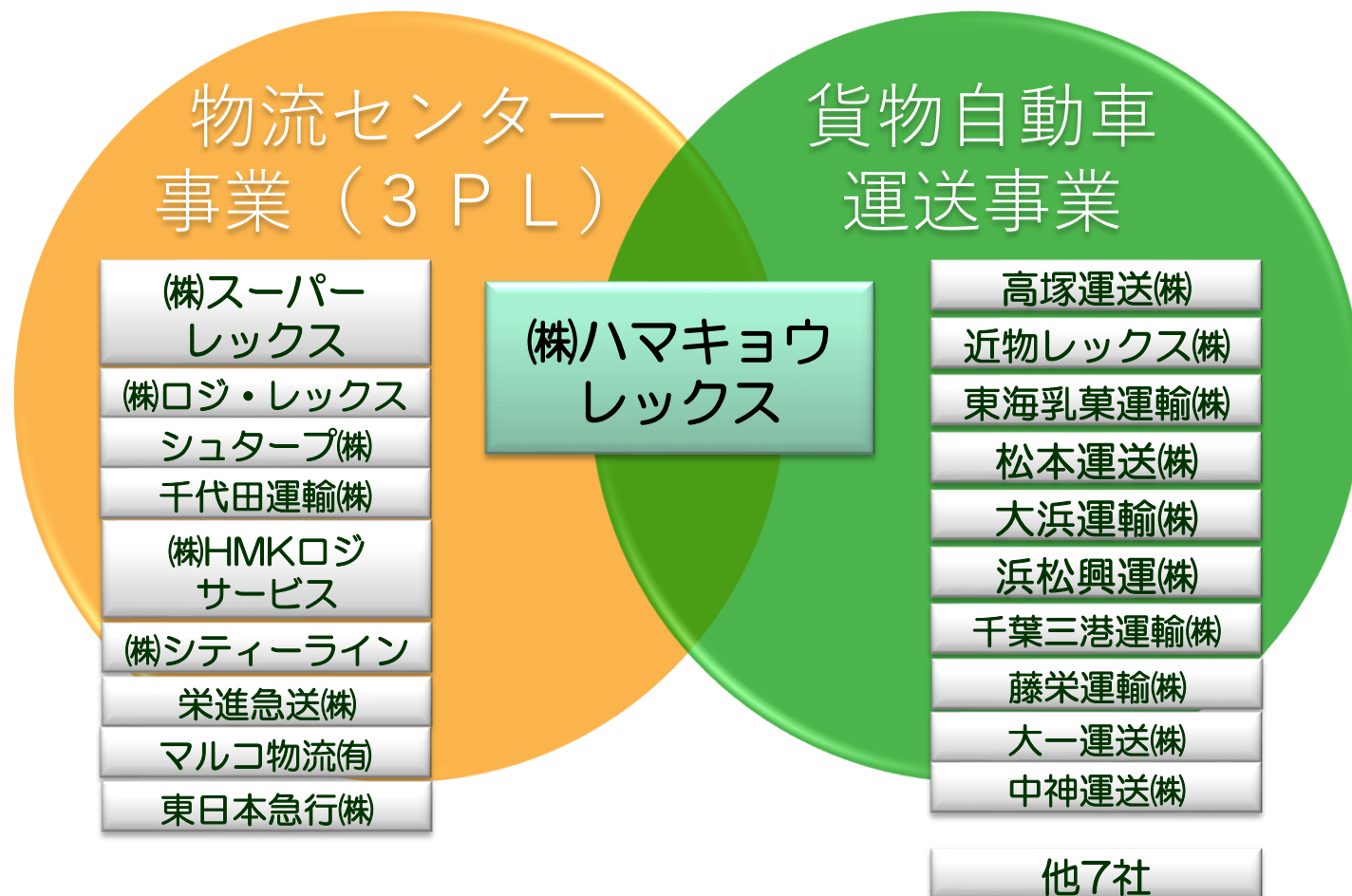


会社概要（2022年9月30日現在）

● 社 名	株式会社ハマキョウレックス (HAMAKYOREX CO., LTD.)
● 設 立	1971年2月
● 資 本 金	65億4,733万円
● 決 算 期	3月31日
● 従 業 員 数	連結 5,295名、単体 859名
● 発 行 済 株 式 数	19,012,000株
● 株 主 数	4,160名
● 事 業 内 容	物流センター事業（3PL）、貨物自動車運送事業
● 連 結 子 会 社	26社
● 営 業 収 益	連結 649億62百万円 単体 244億74百万円
● 経 常 利 益	連結 60億90百万円 単体 41億93百万円

V-4. 事業紹介

当社グループは、
物流センター事業と貨物自動車運送事業を中心に
展開しております。



V-5. 物流センター事業

2022年4月1日に東日本急行株式会社(本社:東京都大田区)の株式を取得し、同日よりハマキョウレックスグループに新たに加わりました。

社 名	東日本急行株式会社
本 社 所 在 地	東京都大田区大森北一丁目17番4号
代 表 者	代表取締役社長 重松 正利
設 立	1971年4月
資 本 金	40 百万円
事 業 内 容	一般貨物自動車運送事業 倉庫業務
従 業 員	213名 (2022年9月30日現在)



東日本急行株式会社 トラック



東日本急行株式会社 倉庫

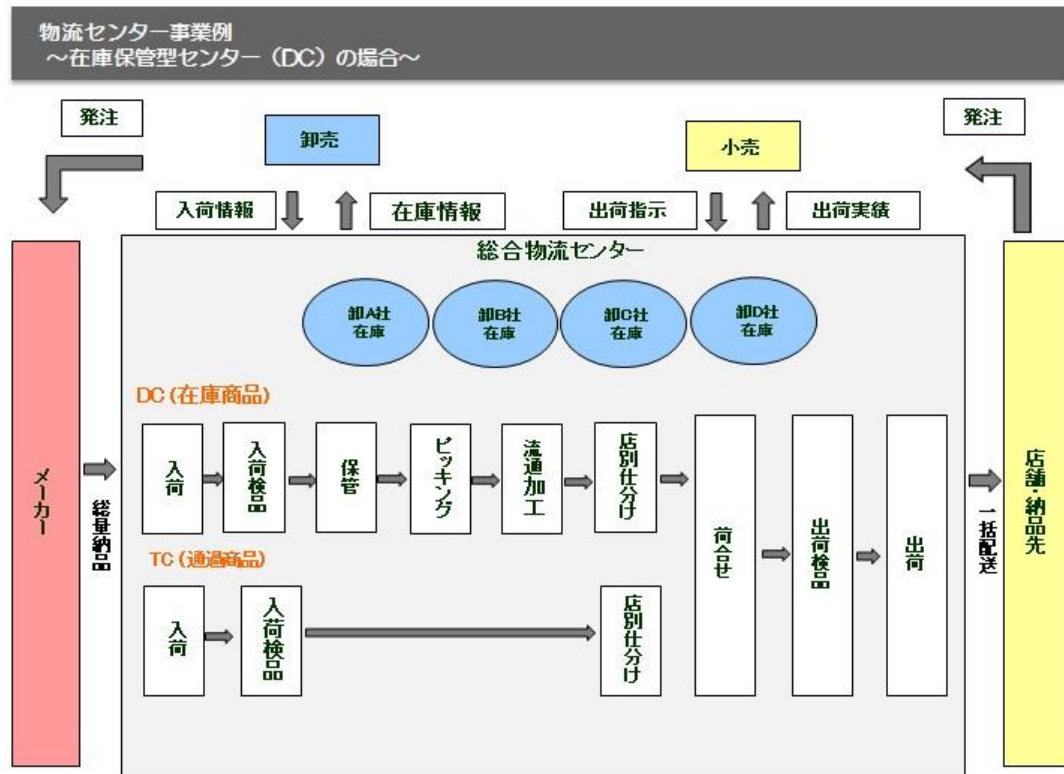
V-6. 物流センター事業

当社は3PL(3rd Party Logistics)をおこなっております。

3PLとは、『荷主様に対して物流改革を提案し包括して物流業務を受託すること』であり、一般的には、『荷主様が物流業務を外部委託(アウトソーシング)すること』を指します。

3PLの主な目的は、「物流コスト削減」「戦略的ロジスティクスの構築による利益追求」です。

お客様にとって最適な物流通をご提案し、「物流を通じてお客様へ利益を還元する」ことが最も重要な役割であると考えております。



コスト競争力 現場力

当社は、「**コミュニケーション**」を重要視し、社員・パート・アルバイトを含めた「**全員参加**」による現場主導での自社運営を実施。「**日計収支※1**」・「**生産性向上**」によるコスト削減を荷主様へ提案し、物流費削減を支援いたします。

※1 日計収支とは、各拠点で、日々決算を行い、その日1日の損益を把握する仕組みです。これにより、その日の問題点を翌日の改善につなげ、日々の無駄なコストを削減していくための当社の仕組みであります。

V-8. 拠点紹介



物流センター数 (2022年9月30日現在)

自社センター	49 (488,608.47㎡)
借用センター	103 (821,306.44㎡)
計	152 (1,309,914.91㎡)

北海道エリア 札幌営業所

関東エリア

つくばセンター 高塚運送(株)本社
 麻生センター (株)スーパーレックス本社
 成田営業所 (株)ロジ・レックス本社
 綾瀬センター 千葉三港運輸(株)本社
 横浜営業所 東日本急行(株)本社
 藤沢センター

東海エリア

(株)ハマキョウレックス本社 岩倉センター
 浜松定温センター 近物レックス(株)本社
 袋井メディカルセンター 東海乳菓運輸(株)本社
 中部メディカルセンター 大浜運輸(株)本社
 豊川センター 浜松興運(株)本社
 小牧営業所 藤栄運輸(株)本社
 北名古屋センター 中神運送(株)本社
 みよしセンター

近畿・四国エリア

彦根支店 (株)HMKロジサービス本社
 伊賀営業所 栄進急送(株)本社
 大阪南港センター マルコ物流(株)本社
 神戸西センター 大一運送(株)本社

中国・九州エリア

福岡メディカルセンター
 日向センター
 千代田運輸(株)本社
 (株)シティーライン本社

● ハマキョウレックス
 ● スーパーレックス
 ● 近物レックス
 ■ 連結子会社本社 26箇所
 (2022年9月30日現在)

IR関係問合せ先・担当者

- 執行役員

管理本部長兼経営企画室長 竹内 義之

- 経営企画室課長

河島 康男

TEL 053-444-0054



将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。